Laerdal®
helping save lives
発行：レールダル メディカル ジャパン株式会社
マーケティング部
〒102-0082
東京都千代田区一番町8 一番町FSビル
TEL：03-3222-8080
FAX：03-3222-8081
www.laerdal.com

シミュレーション最前線
Simulation Forefront
2012 Vol.2

救急救命士が行う処置に新たに“三行為”を追加すべきか否かを検討するための実証研究が、現在、全国各地で実施されています。処置の有効性や安全性が認められ、追加されることになると、救急救命士が担う役割は大きく変わります。こうした動きを先取りし、さる10月20日、救命士教育の専門機関、救急救命東京研修所（ELSTA）から南浩一郎教授、尾形純一教授、横山徹教授の3氏を講師に迎え、第11回SUN Meeting for EMSが開催されました。

講師 南 浩一郎 先生 MINAMI Kouichiro
救急救命東京研修所 教授

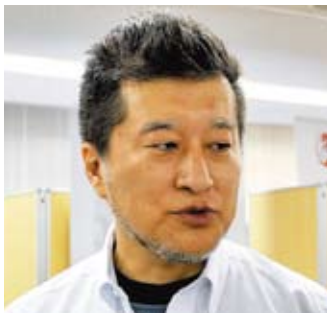
2

Expansion of lifesaving first aid

処置拡大で高まる救急救命士の責任

救急救命士業務が大きく変わる！

医師の具体的指示を必要とする特定行為には、乳酸リンゲル液を用いた静脈路確保、器具を用いた気道確保、薬剤投与、気管挿管が明示されています。これらの行為が心肺機能停止傷病者に対する救急蘇生の質を維持するうえで大きな役割を果たしてきたことは間違いありません。しかし、三行為（①血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、②重症喘息患者に対する吸入β2刺激薬（SABA）の使用、③心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実施）が新たに追加されると、救急救命士には、より一層高度な能力が求められることになります。なぜなら、これまで認められていた特定行為が“心肺機能停止後”の処置に限定されていたのに対し、三行為が“心肺機能停止前”に行われるものだからです。


尾方純一先生

今回の動きに対して、講師を務めた南先生は「救命士の持っている技術・能力をさらに活用できるようになると、外傷性ショックが減り、1ヵ月後生存率が上昇するなど、国民の救命率向上に結びつくに違いない」と期待しています。

横山徹先生

“適用”“不適用”の判断が不可欠に

三行為を実施するには、救急救命士は事前に、循環動態や生理学的所見等から各行為の“適用”“不適用”を自ら判断しなければならなくなります。多くの救急救命士はすでにこうした知識、技術は身につけているとされますが、“適用を考える”という視点で傷病者に接することには慣れていません。

そこで今回行われたのが、ALSシミュレータとSimPadを用いた実践的教育セミナーです。テーマは、「救命士処置拡大―教育方法を学ぼう」――。プログラムは、午前中にショック、午後からは喘息の傷病者が発生したと仮定し、病院前救護（プレホスピタルケア）

の段階で輸液やSABAの必要性を判断し、地域のメディカルコントロールに対し、特定行為に係る指示要請を行うといった形で進んでいきました。「今回は我々にとっても初めての試みということで、搬送事例の多い症例をシナリオにしました」というのは南先生。病院のようにエコーやレントゲンがない状況では、慣れた医師でなければ的確に判断するのは難しいとされますが、尾形先生や横山先生も「十分なトレーニングさえ積めば、救急救命士も必ずできるようになる」と声を揃えます。実際、参加者の方々も最初のシミュレーションでは戸惑いを見せる場面もありました。しかし、講師たちから的確な所見をとるうえでのポイントのレクチャー後、ディブリーフィング(振返り)のための再シミュレーションでは、短時間で的確な判断が行えるようになっていました。

的確に判断できる救急救命士の活躍に期待

生命に直接の脅威が及ぶ重症傷病者の治療成績は、医療機関へ搬送されるまでにとられた処置内容によって大きく左右されます。つまり、正しい判断のもとで適切なプレホスピタルケアが行われれば

救命率の上昇に結びつく可能性は高まりますが、逆に判断を誤り、間違った処置が行われてしまうと、致命的な結果を招くことになりかねないのです。こうした点を考えると、今回の処置範囲拡大の動きは、救急救命士にさらなるレベルアップを求めているといえます。それだけに、南先生らは「参加した救命士たちがそれぞれの職場に戻った後、地域の底上げの推進役になって、今日学んだことを伝えていってほしい」と強く願っています。実践に即したトレーニングを積み重ね、目の前の傷病者の状態を的確に判断できる能力を身につけた多くの救急救命士が活躍する日は、そう遠くないに違いありません。

※南浩一郎先生、尾方純一先生、横山徹先生へのインタビューをもとに記事を構成しています。

SUN Meeting for EMS に参加して

「ディブリーフィングなどを通じて、“なるほど”という部分があり、自分自身の知識を再確認することができたという点で、参加してよかったと思います。」

諫山憲司様（関西医科大学救急医学教室）

「所見を画像で見せてくれたことにより、イメージがわきやすく、吸収できる内容がたくさんありました。今日教わったことを同僚たちに還元していきたいですね。」

木下龍様（白山野々市広域消防本部）

「日頃から理学所見はなるべくとるようにしていますが、ときには抜け落ちてしまうこともあるので、抑えるべきポイントを本部の同僚たちと共有していきたいと思いました。」

中野大様（桐生市消防本部）

「期待に違わない内容でした。呼吸や脈のある場合の見立てを間違えると、処置によってさらに悪くなることもあるので、きちんと対応できるようにしたいと思います。」

林洋一様（岡崎市消防本部）

「観察に特化するという面で過去に受けたセミナーとは全く異なり、とても参考になりました。観察すべき点を誘導する進め方もよかったと思います。」

峯下貴裕様（姶良市消防本部）

「心肺機能停止後の処置に関しては十分に訓練を積んでいますが、その前のことに関してはまだ十分でない部分もあり、よいセミナーだったと思います。」

奥山靖久様（静岡市消防本部）

SimStore™
Making Simulation Easier

SimStoreはシミュレーション教育用のシナリオデータベースです。さまざまなバックグラウンドやレベルに合わせたシナリオをご用意しています。詳しくはレールダルのカスタマーサービス（0120-309-060）にお問い合わせください。
www.mysimcenter.com